

特別支援教育の中での 聾学校施設の現状と課題

沼津聴覚特別支援学校

聴覚障害児の教育を担う学校として 求められるもの

- (1) 豊かな言葉・コミュニケーション力を獲得する。
- (2) 確かな学力を身につける。
- (3) 社会参加・社会自立をめざす。

(1) 子ども一人一人が必要とする 補聴システム

- ① 補聴器、人工内耳管理ができる聴能検査
機器の充実
 - 聴力検査室
 - 聴力検査装置
 - 補聴器特性測定装置

- ② 集団補聴システム

- ③ 情報保障のための視聴覚機器の充実

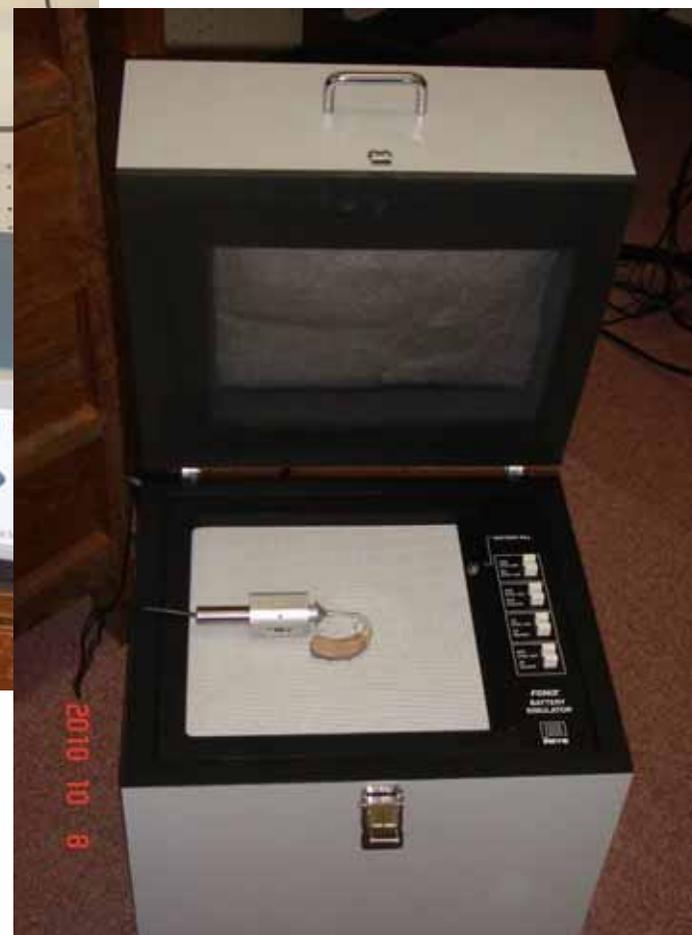
聴力検査(防音室)



聴力測定機



補聴器特性検査装置



集団補聴システム



(2) 学習空間としての教室

- ① 遮音性、吸音性に優れた教室
- ② 視覚的コミュニケーションを確かにする照度を保証する照明
- ③ 補聴器を生かし学習に専念できる環境を作る冷房・空調設備

特別支援教育の中で求められるもの

①

増加する教育相談に対応できる施設

乳幼児、幼稚園・保育園・小学校・中学校・
高校・特別支援学校・企業からの相談依頼

幼児の聴力検査



プレイルーム・相談室



課題①

言葉・コミュニケーション力を獲得する施設として

施設設備全体の老朽化が著しい。

最新の補聴器・人工内耳の活用ができる環境が十分でない。

・検査装置 ・集団補聴システム

進んだ視聴覚機器の導入が進んでいない。

増加する相談者(特に乳児)に対応する施設設備が足りない。

2 確かな学力を身につける

(1)「準ずる教育」を実践する施設

① グループ指導スペース・教材・図書の実充

② 特別教室の実充

アコーディオンカーテンで区切られた 学習スペース



理科室



(2) 障害の重度重複化の中で
一人一人に応じた教育をする施設

① 施設のバリアフリー化

② 活動や実態に応じて個別対応できる部屋

特別支援教育として求められるもの

②

地域の聴覚障害児を支援する施設

通級指導教室

サテライト教室

通級指導教室



課題 ②

確かな学力を身につける施設として

準ずる教育の中でわかる授業を支える環境が不十分である。

- ・ グループに分かれて学習する場所の不足
- ・ 教材・図書を保管や展示活用スペースの不足
- ・ 理科室・図書室などの特別教室の充実

重複障害児に対応した施設へのシフトが必要。

地域の聴覚障害児を支える拠点づくり。

3 社会参加・社会自立を目指す

(1) 幅広い進路希望に対応する施設

① 働く力を育てる作業学習室

② 専門性の高い実習に対応した専門実習室

③ 適切な進路指導のための進路指導室
(資料保管、展示・閲覧、面接・相談スペース)

情報実習室



理容室



特別支援教育の中で求められるもの

③

地域・行政・福祉・労働・医療・教育との連携を
可能にする施設

課題③

社会参加・社会自立をめざす施設として

社会の変化・生徒の実態に応じた働く力を育てる施設として十分ではない。

- 施設設備が老朽化、オールドタイプ
- 重複障害児・・・それぞれの働く力を育てる設備をもつ作業室が必要。
- 就職希望生徒・・・より現実的な実習を可能にする実習室が必要。
- 支援機能をもつ進路指導室の整備が必要。

今後、連携をすすめるため事務所機能をもつスペースも必要である。